上毛新聞　館林ニュース　シャトル
市町町町林倉和田町館板明千代邑
2011年 5月18日（水）
発行所 〒371-5666 前橋市古市町1-50-21 上毛新聞社
編集局 027-254-9933（代表）
シャトル編集室 〒374-0024 館林市末広3-8-34
編集 0276(74)8800 FAX 0276(74)2882
広告 0276(74)7411 FAX 0276(74)2262
ⓒ上毛新聞社 2011年

古来技法で鉄製造

館林「たたら夢市」
フラメンコや書道パフォーマンス

館林市の多々良地域で古来から行われ、地名の由来になったともいわれる製鉄方法「たたら製鉄」の実演が15日、同市日向町の多々良フレッシュファームで開かれたイベント「たたら夢市」で披露された。24㌧の砂鉄から3.5㌧の鉄の塊「鐚」を製造。炉から赤々とした鉄の塊が取り出されると、見学者から驚きの声が上がった。

実演は、元小学校教諭で、たたら製鉄の継承に携わっている福島宣行さん（61）が指導し、同市成島町の学童保育所「しぜん教育研究学園」（高橋弘明学園長）の子供たち16人が取り組んだ。

耐火れんがで高さ150㌢の炉を組み、千度以上に熱した中に、約6時間にわたって10分間隔で砂鉄と木炭を投入し続けた。燃えつきるのを待って炉を崩すと炎が噴出し、中から赤々とした鉄が現れた。

近下宏倖君（館林八小4年）と石倉颯人君（同）は「ナタで炭を割って顔が真っ黒になったり、とても熱くて大変だったけど楽しかった」と元気いっぱい。村上朱璃君（同3年）は「鉄が真っ赤ですごかった」と驚いていた。

見学者は「こんなふうに鉄を作っていたとは知らなかった。当時は大変な技術と労力で作っていたんですね」と感心していた。

夢市は、多々良地域を盛り上げていこうと、市内の企業など46団体が参加し、14日から2日間開催。好天の下、家族連れなど多くの人でにぎわった。

会場は焼きそばやカレーパラ丼、ホットドッグ、かき氷などの模擬店のほか、手芸品、花、野菜の販売、似顔絵、クロットカードなどのテントがずらり。

ステージではバンド演奏、フラメンコ、書道パフォーマンスなど2日間で12団体が演目を披露。多々良に伝わる民話「どんだらさま（だいだらぼっち）」を描いた子供たちの絵も展示され、来場者の目を楽しませた。

実行委員長の新井和勝さん（44）＝日向町＝は「普段人が集まらないところにこれだけ多くの人が来てくれました。来場者、参加者の楽しそうな顔が見られてうれしい。こうした取り組みが、まちづくりの原動力になることを信じて続けていきたい」と話していた。

たたら製鉄の炉の中に砂鉄と木炭を入れる児童

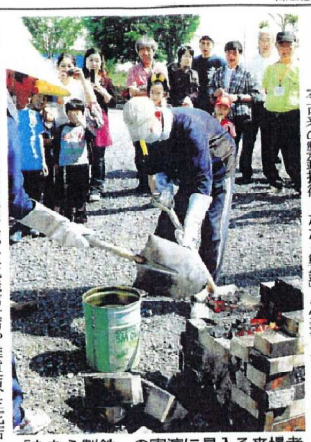
たたら製鉄の実演

フラメンコなど多彩なステージがイベントを盛り上げた

館林でイベント

邑楽館林の鉄産地「多々良」
古来技術を実演

「多々良」の名を広め、地域活性化を目指す「たたら夢市」が14、15の両日、館林市日向町の多々良フレッシュファームで開かれ、物産展やステージ発表のほか、日本古来の製鉄技術「たたら製鉄」も実演した。


「たたら製鉄」の実演に見入る来場者

夢市は地元住民らでつくる実行委員会（新井和勝委員長）が、地域物産展には市内の飲食店や雑貨店、生花店など34団体、ステージ発表にはフラダンスやバンド演奏など12団体がそれぞれ参加した。

たたら製鉄は1200度まで熱した炉の中に10分間隔で砂鉄と木炭を入れて鉄を作る技術。新井委員長によると、かつて多々良地区でもこの製鉄法が行われ、地名の由来になったという説もある。

実演は、たたら製鉄に詳しい元小学校教員の福島宣行さん（61）＝高崎市井出町＝らが担当。来場者も砂鉄と木炭を入れる作業を体験し、高熱で真っ赤になった鉄が炉から取り出されると、大きな歓声